

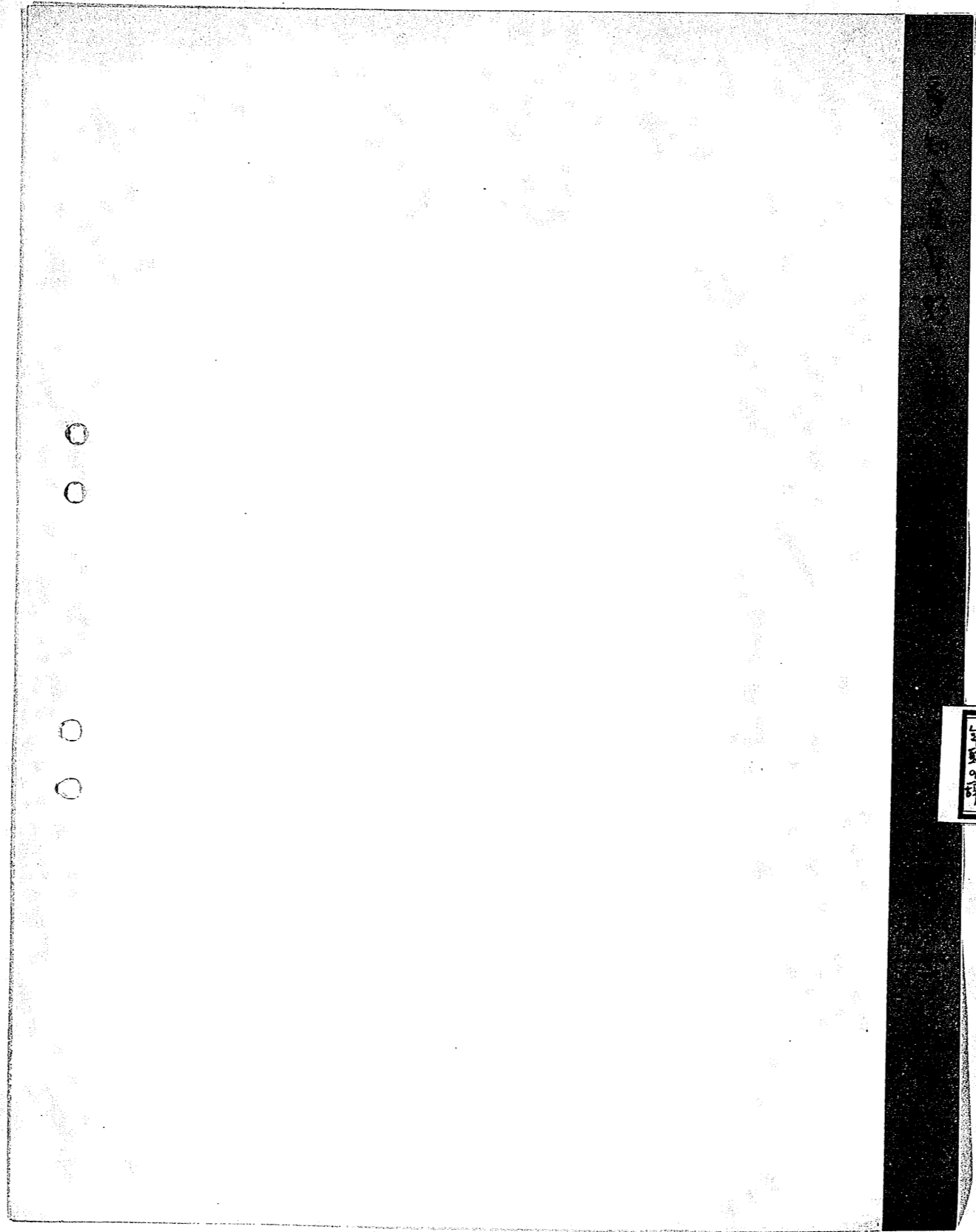
# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄返還交渉資料第4巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): 総理訪米, 米国人記者との会見, 総理, 愛知外相, ニューヨーク・タイムズ, 愛知外相・ロジャーズ長官会談, 統合局長・スナイダー会談, 記者会見, 外相, 官房長官, 米国下院歳出委員会対外活動分科委非公開聴聞会, スナイダー国務省日本部長 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43630">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43630</a>

受知大臣年野の辞

受知大臣  
年野の辞



500  
大正  
5年  
5月

アメリカ局長  
参事官  
北米課長

七廿日、三永新  
ふりまき

大正年終り終了に内政正業

田三、二、二五  
米、地

厚之の言  
二の(外)わが国が当面の外交問題はいろいろありまうか、特に大きな問題は、沖繩の祖国復帰にありまう。政府は沖繩住民を念ふ、日本国民の一環としての理想がある、沖繩返還の早期実現のためには努力を怠りまう。  
今年早々、大統領の青年は米国の新米

外務省

受取附するにたいして  
が、養育するにたいして

心に(新設)具体的活合を進め、  
期待に充てると努力して、  
必要は日本同の友好親善と相互理解のためにつき

活合のいよいよこの問題を解決すること、  
す小中、  
心はなにかと知られまう。

外務省

昭和四十四年

年、頭、の、辞

外務大臣 愛知 揆 一

あけましておめでとうございます。

わたくしは昨年十一月、外務大臣に就任し、直接外交の衝にあたることになりましたが、新春を迎えるにあたり、本誌（紙）を通じて所感をのべる機会を得ましたことは、わたくしのよろこびとするところであります。

最近の国際情勢をみますと、ベトナム問題、中近東問題、チェコ問題といったように、きわめて不安定な要因を内蔵しながら激しくゆれ動いています。このような国際情勢を前にして、わが国がどのように対処していくかということは、われわれ外交当局はもちろん、国民のひとりひとりがよく考えねばならないことだと思います。

わが国は戦後世界の国々が目をみはるほどのすばらしい経済発展をとげ、いまや国民総生産では米ソについて第三位となくなりました。それにつれてわが国の国際的地位も高まり、各国から大きな期待がよせられるようになりました。と同時に、アジアにおける唯一の先進工業国としてわが国が国際社会で果さねばならない義務も生じてきました。先進諸国と開発途上諸国との格差の問題、つまり南北問題にわが国がとりくみ、とりわけアジアの開発問題に積極的な姿勢を示しているのは、この責務を果さんがためであります。われわれが心を傷めているのは、この責務を果さんましても、和平へのきざしがみえてきました。が、和平実現のあかつきには、その復興と建設にわが国は大きく寄与しなければならぬと考えております。

この他わが国が当面する外交問題はいろいろありますが、差当りの大きな問題は沖縄の祖国復帰であります。われわれは国民と

沖繩住民の意思をわきまえ、わが方の立場を十分作り上げて米  
側と折衝したいと考えております。要は日米間の友好親善と相互  
理解にもとづき、話し合いによつて問題を解決することで、復帰が  
実現すれば、世界政治史上特筆されるべき事柄になるのではないか  
と思われまゝ。他方、北方領土の返還につきましても、国民の切  
なる願ひにもかかわらず、未だ解決の緒についていませんが、今  
後とも忍耐よく問題の解決に努めたいと考えております。  
いづれにしましても、わが外交を強力なものとするためには、  
国民のみなさまの理解と支持を得ることがどうしても必要であり  
ます。われわれはできる限り外交に国民的願望を反映させるよう  
努力する所存であります。国民のみなさまにおかれましても、  
きびしい国際環境の中にあるわが国の立場をよく理解され、わが  
外交のうしろ楯となつていただくようお願いしたいと思います。

3

昭和四十四年  
年 頭 の 辞

外務大臣 愛知 揆 一

あけましておめでとうございます。

わたくしは昨年十一月、外務大臣に就任し、直接外交の衝にあ  
たることになりましたが、新春を迎えるにあたり、本誌（紙）を  
通じて所感をのべる機会を得ましたことは、わたくしのよろこび  
とするところであります。

最近の国際情勢をみますと、ベトナム問題、中近東問題、チエ  
コ問題といったように、きわめて不安定な要因を内蔵しながら激  
しくゆれ動いています。このような国際情勢を前にして、わが国  
がどのように対処していくかということは、われわれ外交当局は  
もちろん、国民のひとりひとりがよく考えねばならないことだ  
と思ひます。

わが国は戦後世界の国ぐにが目をみはるほどのすばらしい経済発展をとげ、いまや国民総生産では米ソについで第三位と成るにいたりました。それにつれてわが国の国際的地位も高まり、各国から大きな期待がよせられるようになりました。と同時に、アジアにおける唯一の先進工業国としてわが国が国際社会で果さねばならない義務も生じてきました。先進諸国と開発途上諸国との格差の問題、つまり南北問題にわが国がとりくみ、とりわけアジアの開発問題に積極的な姿勢を示しているのは、この責務を果さんがためであります。われわれが心を傷めているのは、この責務を果さんましても、和平へのきざしがふえてきました。が、和平実現のあかつきには、その復興と建設にわが国は大きく寄与しなければならぬと考えております。

この他わが国が当面する外交問題はいろいろありますが、差当りの大きな問題は沖繩の祖国復帰であります。われわれは国民と

沖繩の復帰  
しよるのしよるを

沖繩住民の意思をわきまえ、わが方の立場を十分作り上げて米國側と折衝したいと考えております。要は日米間の友好親善と相互理解にもとづき、話し合いによつて問題を解決することで、復帰が実現すれば、世界政治史上特筆されるべき事柄になるのではないかと思われます。他方、北方領土の返還につきましても、国民の切なる願いにもかかわらず、未だ解決の緒についていませんが、今後とも忍耐よく問題の解決に努めたいと考えております。いずれにしても、わが外交を強力なものとするためには、国民のみなさまの理解と支持を得ることがどうしても必要であります。われわれはできる限り外交に国民的願望を反映させるよう努力する所存であります。が、国民のみなさまにおかれましても、きびしい国際環境の中にあるわが国の立場をよく理解され、わが外交のうしろ楯となつていただくようお願いしたいと思います。

△△ 產業經濟研究會 (雜誌)  
○ 大陸台島聯合會 (雜誌)  
○ 中華書局 (雜誌)  
○ 財政經濟出版社 (雜誌)  
○ 且矣 (雜誌)  
○ 師人雜誌 (月刊)